

# 一期一会

|    |                 |
|----|-----------------|
| 自律 | 目標に向かって自分自身を律する |
| 感謝 | 思いやりや感謝の気持ちをもつ  |
| 貢献 | 将来社会に貢献する態度を養う  |

2021.11.26 第30号



## 高等学校からのメッセージ

先日、県立学校長協会と県中学校長会の連絡会が行われました。その中で、高等学校から中学生に向けてのメッセージが出されましたので紹介します。

### 1 学習面について

- 高校においては、日常の生活リズムや基本的な生活習慣は、学習や進路実現の基盤となるものです。中学校の時に、先生方の指導を参考にして、しっかりと確立しておくことが重要です。
- 高校の学習では、中学校よりも内容も多く難しくなります。そのため学ぶスピードが速くなり、学ぶ内容も深くなります。中学校では、学ぶ習慣や基礎基本をしっかりと身に付けておくことが高校での学びにつながります。基礎基本を身に付けた上で、発展的な内容を自ら学ぼうという意欲をもって高校を目指して欲しいと考えています。
- 中学校までの基礎学力がしっかりと定着していることで、大学進学を目指した高校での学習がスムーズに進んだり、専門的な知識を必要とする専門高校でも、専門科目の学習が深まっていったりします。  
特に、大学進学を視野に入れている生徒には、結果や事象の暗記だけでなく結果に至る過程等を大切にするような勉強が大切です。
- 学び直しや働きながら学ぶことを目的で定時制や通信制を受検する生徒は、例えば、数学での割算や小数点四則問題、国語では小学校からの漢字などの基礎学力はしっかりと身に付けておくことが大切です。

### 2 生活面について

- 定時制や通信制に入学している生徒は、アルバイト等をしている生徒が少なくありません。しかし、勉強とアルバイトとの両立は難しいものです。あくまで学校の学習や出席、提出物などが優先であることが基本であることを理解しておいて欲しいと思います。
- スマートフォン使用に関しては、高校によっては、持ち込みが許可されている学校があります。その利用については、学校内のルールにしたがって欲しいと思います。また保持、管理については本人、保護者の責任であることから、携帯・スマホを利用する上での責任について家庭で十分話し合い理解した上で利用することをお願いします。  
特に、スマートフォン（SNS等）使用に伴う様々なトラブルも多いので、使用時間の自主制限も含めて正しい使い方（情報モラル）について、家庭の中でしっかりと共通認識をもつことが求められています。

### 3 高校入試について

- 高校によっては、定員を満たしていない状況の学校もありますが、入試にかかる学力等が不足している場合、不合格になることがあることを理解しておいて欲しいと思います。
- なぜ高校に行きたいのか？なぜその学科に行きたいのか？など高校に入学する目的をしっかりと見つことや、高校に入学してからはどんなことがしたいのか？将来はどんな仕事に就きたいのか？といったことも日ごろから考えておくことが大切です。
- 高校には、全日制・定時制・通信制、また普通科・職業科・総合学科それぞれに特徴や良さがあります。各高校のオープンキャンパスや産業教育振興等にかかる各種イベント等に参加して、積極的に志望校の情報を具体的に収集して欲しいと思います。
- 入学後に後悔しないよう、自分の思いに真に合致した学校選択で、入学したそれぞれの学校で充実した高校生活を送ることができるよう期待しています。

## 租税教室 11.17

昨今の子どもたちを取り巻く社会の変化に伴い、本校では「金融教育」「租税教育」「消費者教育」を推進しています。これは、子どもたちが社会に出てすぐに体験するであろう生活に必要なお金の知識を身に付けることが目的です。

2022年度からの高校の新学習指導要領には「資産形成」が盛り込まれます。このことからもお金に関する知識の必要性を理解していただけることと思います。

2022年4月1日から成人年齢が18歳に引き下げられることは、第22号「こすもす科・社会とお金」でふれました。成人年齢の引き下げに伴い、詐欺などの消費者トラブルが格段に増えるとのデータがあり、売買のルールや契約の仕組みといった基本的な知識を早期に身に付ける必要が生じています。また、電子マネーなどの普及に伴うキャッシュレス化の進行でオンライン決済が簡単にできるようになり、子どもによるゲームの高額課金など「見えないお金」ゆえの問題も頻発しています。

「金融教育」「租税教育」「消費者教育」を通して、「自分の人生をどうしていきたいのか」というライフデザインや、そのために「いつ、何をするか」というライフプランを考えさせることで、キャリア教育へ広げていきます。ご家庭でも親子で話すきっかけになれば幸いです。

